

自民党の村上誠一郎副幹事長が16日朝、都内のホテルで講演し、次の警鐘を鳴らした。

「時限爆弾の爆発が刻々と近づいているのに、だれもコードを抜こうとしない。それどころか危機について議論すらできない、しない状況だ」

時限爆弾とは国と地方の債務が来年3月に700兆円を超えること。

2010年は1000兆円を超す試算もある。

「41兆円しか収入がないのに、国債を増発して82兆円の家計をまかなっている」



《2683》

たしかに貧富の差が拡大し犯罪が頻発して、破滅への予兆が感じられる。

「40兆円の増収をはかるには消費税を20%上げねばならない計算になる。しかし、小泉首相は在任中は1%も上げない、という。では次の首相がやるのか」

こうした深刻な問題について論じたり、やろうとすると人気が落ちる。だから首相はやろうとしない。

「1日遅ければ、次の世代の痛みがそれだけひどくなり、死ぬのを早めるだけなのに」

「挙国内閣を」財政再建へ

この大問題の解決のヒントを村上氏は2つあげた。

「介護の予算は倍々ゲームのように増えている。医療と年金と介護。これらを個別に扱わず、ひとくくりにして、それこそ三位一体的に対応する仕組みを考えることだ」

そして政治のあり方について。

「2大政党制を言っている事態ではない。民主党も総選挙で高速道路の無料化とか年金据え置きとかポピュリズムに走ったのは残念だ。ここは自民も民主も一緒になって挙国一致内閣でやるしかない」

さらに村上氏が「もう一つの時限爆弾」と指摘したのが教育。

「国家の発展は教育で決まる。日本はなぜおかしくなったか。6・3・3制はスペシャリストをつくらせず、公の精神を教えることをしなかった」

「数年前、官界で不祥事が多発し、財界で経営者のレベルが急速に低下した。それは旧制高校の出身者が各界から消えた時期と符合する」

俺なら火だるまになってやる、という気迫の演説。最後に村上氏が言った。

「2つの時限爆弾のコードはまだ手がつけられていない。ラストチャンスはこの2、3年だ」

「先送りできない危機」自民・村上